

大倉ダムの弾力的管理試験について

1 下流河川の課題

近年、大倉ダム下流河川の広瀬川において流量不足により瀬切れが生じ、魚介類が大量へい死する事態が発生しており、北堰から牛越橋区間及び郡山堰下流において度々減水区間が発生しています。

【渇水発生当時の新聞記事】



2 弾力的管理の目的

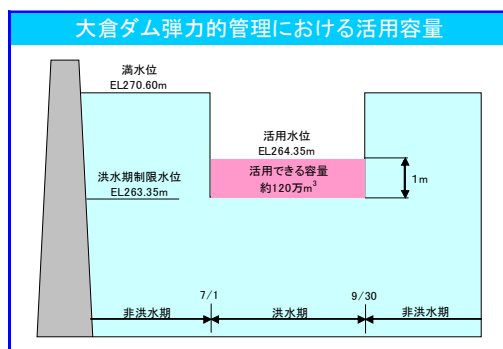
大倉ダムでは、洪水調整に支障を及ぼさない範囲で、洪水調整容量に渇水時放流するための容量を貯留し、これを適切に放流することによりダム下流の河川環境の保全を図るため平成15年度より弾力的管理試験を実施しています。

当ダムの具体的な活用目的は次のとおりです。

- ①河川景観の回復
- ②魚類の生息環境の改善

3 活用水位及び活用容量並びに活用期間

- ・活用水位：制限水位EL263.35mからEL264.35mまでの1.0m
- ・活用容量：約120万 m^3
- ・活用期間：7月1日から9月30日まで（洪水期）



4 活用放流方法（ダムに活用容量が貯留されていることが前提）

- ・放流量：原則として広瀬橋地点における流量が、 $1.0m^3/s$ を下回らない量を放流します。
- ・放流条件：広瀬橋地点において流量が $1.0m^3/s$ 未満となる恐れがある場合、下記により放流を実施します。

- ①渇水情報連絡会が開催され、放流の要請があった場合
- ②緊急を要する場合で渇水情報連絡会会長からの要請があった場合

5 参考（平成16年度の実施結果）



放流前 郡山堰の状況(H16.8.3 8:50頃)
(広瀬橋地点 $h=-1.05m$ 、 $Q=0.71m^3/s$)



放流後 郡山堰の状況(H16.8.4 11:30頃)
(広瀬橋地点 $h=-0.98m$ 、 $Q=1.68m^3/s$)